

## 第 2 回 情報発信・合意形成に関する検討部会

### 拡大ワーキング「牧野の開放・ふれあい利用検討会（仮称）」実施要領（案）

#### 1. 趣 旨

阿蘇の草原の維持・保全・再生に向けては、農業との連携が不可欠であるとともに、地域の人々による草原の価値に対する再認識を図ることや、幅広い層に草原保全に対する理解と協力を求めていくことが必要である。その一環として、草原を活用したエコツアーや環境教育などを推進し、阿蘇の草原の成り立ちや多面的価値をアピールするとともに、草原を基盤とした、畜産業や採草事業以外の経済的効果を地域に創出することを通じて、草原の保全を図っていくことが考えられる。

一方、草原への立ち入りに関しては、利用権者、管理者としての牧野組合の意向が最優先されるべきであり、実現のために解決すべき課題も多い。

そこで、「情報発信・合意形成に関する検討部会」における第 2 回検討会の拡大ワーキングとして、牧野組合関係者や自然案内人協会などに参加を呼びかけて本検討会を開催し、牧野を利用した環境教育のあり方、利用のルールづくり、都市との連携による草原保全などについて意見交換を行うことにより、牧野の開放・利用推進の可能性や必要な条件整備について検討するものである。

#### 2. 参加者と呼びかけ方法

「情報発信・合意形成に関する検討部会」の委員のほかに、牧野組合関係者、自然案内人協会、一般利用者に参加を呼びかける。その他、修学旅行を受け入れ農家民宿を斡旋している阿蘇グリーンストック、民間の観光関連事業者として J R 九州や J T B からゲストを迎えることが考えられる。

募集方法は阿蘇草原再生 H P での告知、新聞等マスコミへのニュースリリース、牧野組合関係者・自然案内人協会へのチラシでの案内などによる。

#### 3. 討議方法

検討委員 8 名に加え、5 名程度のゲストを迎えた検討会とする。検討会は公開とし、牧野組合関係者や一般利用者など幅広い層に公聴してもらい、公聴席からの質疑応答も設けるものとする。

また、検討会終了後懇親会を設け、関係者間のコミュニケーションを図るものとする。

#### 4. 討議テーマ（例）

- ・ 牧野を利用したエコツアー・環境教育の意義について（地元の人による地域の価値の再認識、子供から大人まで幅広い層への草原の価値の理解促進、草原保全に対

する参加・協力意識の醸成、 地域にお金が落ちるしくみづくりを通じた地域振興と  
草原保全の推進 など)

- ・ 牧野を活用したエコツアー・環境教育の具体例と今後の課題（カルデラツーリズム、  
全国エコツーリズム大会 in 阿蘇、グリーンストックが実施している環境教育等）
- ・ 牧野の「どんなところを」「どんな方法で」「どんな人達に」紹介していきたいか
- ・ 環境保全など利用に当たっての前提条件や、牧野利用に関する取り決め・守るべきル  
ールについて
- ・ 自然案内人など地域のガイドに求められること
- ・ 今後の推進方策について 等

## 5．検討会の進め方（プログラム）の例

趣旨説明

考え方・既存調査結果等についての事務局報告 or 基調報告

委員からのコメント

ゲストからの話題提供（事例紹介等）

質疑応答

委員・ゲストによるディスカッション

## 6．開催時期

平成 16 年 2 月